

地域の課題を繋ぐカフェ：
障害者の就労促進と保護猫の殺処分を減らすために

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 岐阜大学教育推進・学生支援機構 公開日: 2024-07-04 キーワード (Ja): 保護猫, 障害者福祉, カフェ, メニュー開発, プロジェクト型インターンシップ キーワード (En): 作成者: 白村, 直也, 後藤, 千絵, 牧野, 麻記 メールアドレス: 所属: 岐阜大学, サステイナブル・サポート, サステイナブル・サポート
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/0002000792

【実践報告】

地域の課題を繋ぐカフェ

障害者の就労促進と保護猫の殺処分を減らすために

白村 直也¹⁾，後藤 千絵²⁾，牧野 麻記²⁾

¹⁾ 岐阜大学教育推進・学生支援機構

²⁾ 一般社団法人サステイナブル・サポート

要旨

2022 年度全学共通教育科目後期「課題解決型インターンシップ」を昨年同様、岐阜市の就労継続支援 B 型事業所「シャンツェ」（一般社団法人サステイナブル・サポート）が運営するカフェ「猫影」にて執り行った。

今回は、障害者が働く保護猫カフェ「猫影」で提供されるメニューの開発と SNS を通じた広報戦略を提案することを目的とした。岐阜県には障害者の就労促進や動物愛護、とりわけ捨て猫の保護といった社会問題があるが、私たちの取り組みをもってそれら社会問題を繋ぎ、その解決に取り組んだ。授業を通じて得た成果については、一般社団法人岐阜県インターンシップ推進協議会のホームページで公表することで、広く社会に向けて発信することとした。

キーワード：保護猫，障害者福祉，カフェ，メニュー開発，
プロジェクト型インターンシップ

1. はじめに—岐阜大学「プロジェクト型インターンシッププログラム」とは

本授業の成り立ちについては約 10 年前にさかのぼる。文部科学省の産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業「中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化」により、2012 年度に岐阜大学が採択された教育プログラムとして、当初「岐阜大学プロジェクト型インターンシッププログラム」としてスタートした。

2013 年度は約半年間、パイロットスタディとして PBL 型（Project-Based Learning，チームで課題を解決する）の教育プログラムを実施し、2014 年度からは新たに全学共通教育でのキャリア形成科目「プロジェクト型インターンシップ」として単位認定され、毎年半期の授業（後期 15 回）として実施されている。授業の枠内でおおよそ 3～5 日間程度、行政

機関や民間企業での研修に従事することがインターンシップとして大きな柱となっている。この授業を履修する学生は、PBL型の授業としてインターンシップ受け入れ先の行政機関や企業より与えられた「課題」の解決に向けたグループワークに取り組む。年明け1～2月に受け入れ先のご担当様のもとで成果発表会を実施し、課題に対する具体的提案を行うというのがこのプロジェクト型インターンシッププログラムである。

2022年度は、昨年に引き続き就労移行支援事業所¹「ノックス岐阜」の運営を主軸に、岐阜県岐阜市において福祉事業を展開する一般社団法人サステイナブル・サポートが運営する、就労継続支援B型事業所「シャンツェ」のカフェ「忍者ねこカフェ 猫影猫影」（岐阜県岐阜市岩地2丁目20-20、以下「猫影」と記す）に学生の受け入れをお願いした。この法人は障害者の就労に限らず、地域における障害者が抱える課題に対し非営利団体として課題解決のアプローチを実践している²。

2. 就労継続支援B型事業所「シャンツェ」、そしてカフェ「猫影」とは

障害者の就労といえば、2021年3月から企業の法定雇用率が2.3%に引き上げられことが記憶に新しい。2023年4月にはさらに2.7%に引き上げられ、(経過措置として2023年4月から1年間は2.3%、2024年4月からは2.5%、2026年7月からは2.7%と段階的に引き上げ)、少しずつ雇用される障害者数は増加しているが、まだそのハードルが高いことは至る所で指摘される。

就労継続支援B型事業所³「シャンツェ」（以下、「シャンツェ」と記す）[<https://schanze-gifu.com/>]とはどういうところなのか。昨年度の本年報（第8号）実践報告に記したが、「ノックス岐阜」は、ここで紹介する「シャンツェ」以外にも、岐阜市で宿泊施設を運営する同じ就労継続支援B型事業所である「アリー」[<https://alley-ss.com/use/>]を運営している。「シャンツェ」も「アリー」も同じB型事業所であり、B型事業所での職業訓練を通じて、通所者に一般企業への就職やA型事業所等へのステップアップを促している。この事業所が受け入れる対象（通所者）としては、発達障害や精神障害があるため、体調や精神的な面で一般企業への就労が難しい人（障害者手帳、医師の診断書や意見書等保持者）が設定されている。この事業所で作業の対価報酬（「工賃」）をもらい、自分のペースで働くことを通じてスキルなどを身につける。

「シャンツェ」が運営する「猫影」について紹介したい。環境省の統計によれば、岐阜県は保護猫の殺処分数が全国的に見て多い⁴。このカフェはいわゆる猫カフェであるが、保護猫の殺処分数を減らすことを目的に、カフェで保護猫を預かっている。ここでスタッフとして職業訓練を積む通所者（障害のある施設利用者）は、猫の飼育はもとより、接客（フードとドリンクの提供）、そして広報（SNSやブログの更新）を行う。そうすることで、コミュニケーション能力や、社会で必要とされる職業上のスキルを育む。「シャンツェ」は、保護猫

の殺処分をどのようにしたら減らせるか、そして障害者の就労をどのようにしたら促進できるか、という 2 つの社会問題をつないだ先に生まれたカフェである。

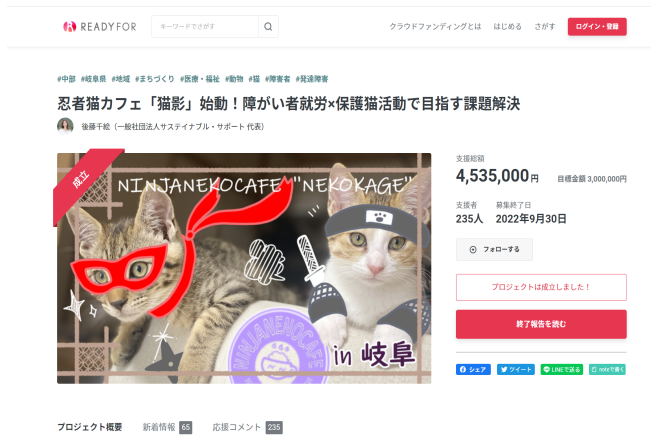


図 1. クラウドファンディングページより [https://readyfor.jp/projects/nekokage] (2023 年 3 月 11 日閲覧)

この「猫影」のオープン は 2023 年 2 月だったが、オープンに向けてクラウドファンディングを利用し開業資金を募っていたこともあり、社会の注目を集めていた(図 1)。施設の改修や必要な備品の購入などに約 1,800 万円が必要であり、うち約 450 万円をクラウドファンディングで募った(支援者 235 名)。そうした支援もあり、開店に至った。

「猫影」での 1 日は、朝 10 時に始まる。通所者は 12 時まで業務に従事し、1 時間の休憩を挟んで 13 時

から 15 時の業務、そして 15 時から 16 時の面談などを受ける。

オープンに先立つ 2022 年 10 月に後期「プロジェクト型インターンシップ」の授業は始まった。「猫影」から学生に出された課題は、カフェで提供されるメニューの開発と SNS を通じた広報戦略を検討することだった。授業を履修した学生は、この課題に取り組む中で障害者の就労をめぐる現状や問題点、そして動物愛護(とりわけ捨て猫の保護)をめぐる岐阜県が抱える社会問題の一端を垣間見、その改善に取り組んだ。以下授業の具体的な流れを記す。

3. 授業風景

この授業を履修した学生は 10 名おり、全員 1 年生、所属学部は教育学部 5 名、工学部 2 名、応用生物学部 3 名だった。全 15 回の授業は表 1 のように進行していった。

表 1. 授業の進行状況

日付	授業内容	備考
10/4 (火)	初回オリエンテーション	シラバスの確認、インターンシップの説明など
10/11 (火)	講演および課題提示	就労移行支援事業所「ノックス岐阜」代表理事のお話
10/18 (火)	グループ分け：メンバーの自己紹介など 課題への取り組み方針の決定	
10/25 (火)	メニューの考案：具体的な材料、方法 広報戦略と SNS の分析	

11/1 (火)	メニューの考案： メニューを考案する上で協力を仰ぐ企業調査 広報戦略：他のカフェの SNS の分析	スーパー数社，農家数件，畜産関係企業，農業協同組合
11/8 (火)	メニューの考案： 協力を仰ぐ企業との連絡と聞き取り調査 広報戦略：SNS の利用と仮のアカウントの作成	スーパー数社，農家数件，畜産関係企業，農業協同組合
11/15 (火)	メニューの考案： 金額，試作品の見た目，味などの講評 広報戦略：SNS 運用マニュアルの作成	
11/22 (火)	「猫影」訪問準備	パワーポイントの製作等
11/29 (火)	発表リハーサル	
11/30 (水)	「猫影」，人と動物の共生センター（岐阜県岐阜市岩地 2 丁目 4-3）訪問	これまでの成果を報告。また，人と動物の共生センターにて，犬猫の保護活動の内容や課題について学んだ。
12/6 (火)	プレゼンの振り返り，改善策の検討	
12/13 (火)	メニューの考案： 各自試作の振り返り，改良 広報戦略：SNS 動画の投稿の際のお試し動画作成	
12/20 (火)	メニューの考案： 改良したメニューの発表。 広報戦略：岐阜県インターンシップ推進協議会へ提出する動画の製作	
1/17 (火)	メニューの考案： メニューの改良，報告書の作成など 広報戦略：完成した動画の披露と修正	
1/24 (火)	メニューの考案： メニューの改良，報告書の作成 広報戦略：報告書の作成など 最終報告の準備①	
1/31 (火)	最終報告の準備②	
2/15 (水)	「猫影」訪問，最終報告会	

カフェ「猫影」訪問と取り組む課題について

10 月 11 日に「シャンツェ」を運営する一般社団法人サステイナブル・サポート代表理事のお話を聞くことで，学生は障害者の就労状況と抱える問題，そして岐阜県の動物愛護の状況に触れた。それを踏まえて，今年度の授業で学生が取り組む課題が出された。それは，2023 年 2 月のオープンに向けて「猫影」で提供されるメニューの開発と SNS を使用した広報戦略を提案することだった。具体的には，○メニューの開発：地域の特産物を使用したカフェメニューの考案・開発。地域の活性化や商品としてのコスト，障害者が調理する手間なども考えつつ，随所で「猫影」らしさを盛り込むことも追求することが求められた。そして，○広報戦略：Instagram や TikTok など，若者の多くが日常的に使用しているツールを活用して，多くの人に「猫影」の存在を認知してもらうために，どのような工夫をしたら良いかを検討することが求められた。

こうした課題を受けて、早速学生たちの取り組みが始まった。履修者 10 名を 5 名ずつの 2 グループに分け、各グループ（メニュー開発グループと広報戦略グループ）でリーダーを 1 人決めると同時に、リーダー中心に議論が進められた。議論は、回を重ねるにしたがって、非常に内容の濃いものとなっていった。その間、「猫影」に加え、人と動物の共生センターを訪問した（図 2）。

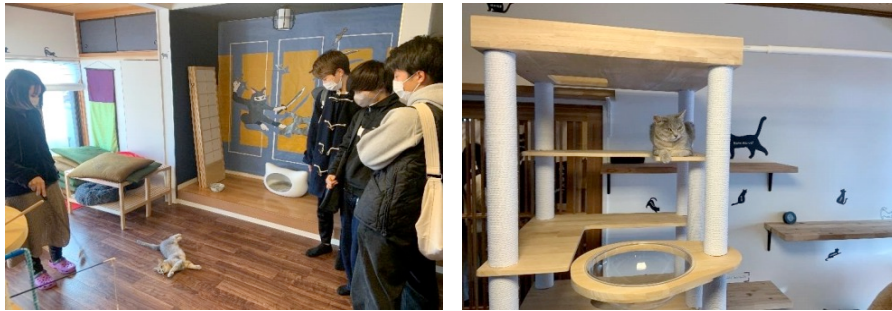


図 2. 「猫影」訪問時の模様

メニュー開発グループは、“地域の特産物を使用する”という課題に対して、岐阜県の特産物である「富有柿」を使ったジャムの開発と実用化を目指すこととなった。岐阜県内の様々な企業などに連絡をし、メニューの材料となる食材のコストについて聞き取り調査をするとともに、「猫影」らしさを追求した。また開発する軽食にアレンジを加えたり、調理の手間を考慮したりしながら開発を進めた。一方の広報戦略グループは、まず「猫影」の Instagram や TikTok のアカウント開設、プロフィール欄の作成など、SNS 開設にあたっての初期準備と運営マニュアルを取りまとめた。

こうした活動を通じて、たとえばメニュー開発では、アイデアのメリット・デメリットをまとめて取捨選択していく過程で、いろいろな角度から考えることの重要性を学ぶことができた。また広報戦略においては、普段から自分でも使っているアプリケーションを「大衆に向けての宣伝」という、普段とは大きく異なる目的で使用する事の難しさを、身をもって知ることができたように思う。以下、各グループの取り組みを具体的に紹介したい。

各グループの取り組み

○ メニュー開発グループ : 提案したメニュー案の一例

メニュー案 (1) 「富有柿の茶トラ猫ゼリー」: 柿と牛乳のゼリーを茶トラ猫の模様に見立てたメニュー。猫の形をした型枠を使うことで、ゼリーを猫型に固めた (図 3)。



図3. メニュー案(1)「富有柿の茶トラ猫ゼリー」

メニュー案(2)「富有柿ジャムの茶トラ猫ラテ」: 富有柿を柿ジャムにし、牛乳と混ぜ合わせたジャムラテ。柿ジャムと牛乳がまだら模様になり、茶トラ猫の模様を表現する(図4)。



図4. メニュー案(2)「富有柿ジャムの茶トラ猫ラテ」

メニュー案(3)「7牛猫チョコムース」: ブラック・ホワイトチョコレートのムースを牛猫の模様に見立てたメニュー。猫の形をした型枠を使うことで、ムースを猫型に固めた(図5)。



図5. メニュー案(3)「7牛猫チョコムース」

○ 広報戦略グループ

SNS班では、他の猫カフェのSNSを分析することで、どのようなコンテンツや機能を使うのが最も良いのかを導き出した。「猫影」を運営する方々の立場に立って考えると、

「猫影」の SNS アカウントを作るだけでなく、作った後の運用方法も重要である。そこで、投稿内容やハッシュタグの活用法などを定めた SNS 広報のマニュアルを作成した。

1. SNS の分析

どんな SNS を宣伝のために利用し、なぜその SNS を利用するのか。様々な SNS の分析を通して、Instagram や TikTok で利用できる機能に注目し、その機能を使った広告戦略を検討した。

2. 他の猫カフェの SNS の分析を踏まえた宣伝戦略の検討

「猫影」の SNS 宣伝を考えるにあたって、他の猫カフェの SNS を分析した。分析にあたって、他の猫カフェが使っている SNS や投稿内容、プロフィール、フォロワー数などに着目した。これらの分析を通して、投稿内容や運用方法など実践的で詳細を詰めた「猫影」の SNS 宣伝の提案を考えた。

3. SNS 宣伝のマニュアル作成

「猫影」を運営する方々の立場に立って考えると、「猫影」の SNS アカウントを作るだけでなく、作った後の運用方法も重要である。そこで、投稿内容やハッシュタグの活用法などを定めた SNS 投稿のマニュアルを作成した。

4. 活動をまとめた動画の作成

SNS 宣伝の提案の他にも、今回の取り組みをまとめた動画を作成し、岐阜県インターンシップ推進協議会への提出を行った。

一般社団法人岐阜県インターンシップ推進協議会のホームページ上での成果報告



図 6. 一般社団法人岐阜県インターンシップ推進協議会のホームページより

[<https://report.gifuken-internship.org/>] (2023 年 3 月 11 日閲覧)

この授業では、例年一般社団法人岐阜県インターンシップ推進協議会（岐阜市）が開催しているインターンシップ成果報告会に参加しているが（令和3）年度第16回は、11月24日（水）JR岐阜駅前じゅうろくプラザで開催、今年度は開催せず、その代わりにホームページ上での成果報告となった。したがって、私たちの取り組みも、活動を動画としてまとめ、ホームページに掲載して頂くこととなった（図6）。

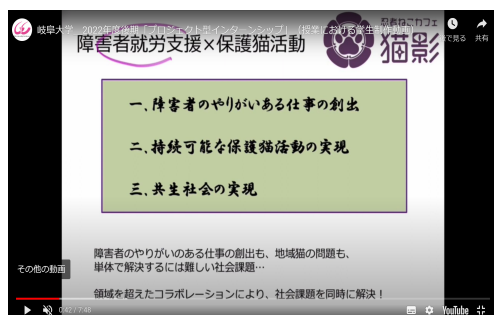


図7. 動画の内容①

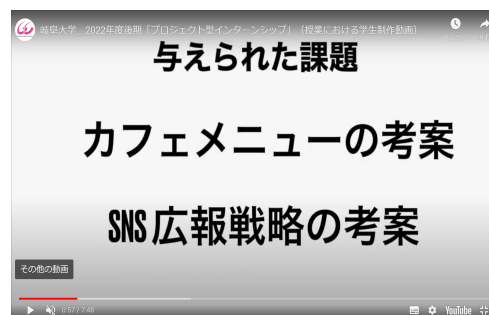


図8. 動画の内容②



図9. 動画の内容③



図10. 動画の内容④

ホームページには、教員と学生へのインタビュー内容とともに、学生が活動の内容をまとめ制作した約8分の動画が掲載されている（図7から10）。

最終プレゼン報告会の開催

令和4年10月から始まった本授業も、いよいよ最終回となった。今までの取り組みを総括し、インターンシップの受け入れ先である一般社団法人サステイナブル・サポートのご担当様にその成果を披露する場を令和5年2月15日（水）15時から持った。

メニュー開発グループは、現実的であるとともに、「猫影」のカフェメニューとして興味が持てる個性的で魅力的なカフェメニューを提案することを心掛け、SNS 班は最終的な提案および、Instagram の投稿について、位置情報を添付して、より多くの人に「猫影」に来てもらいやすいようにする提案も行った。最終報告会では非常に多くの質問があり、各グループで適宜応答することができた。今回提案したメニューについては、岐阜県産の材料を使

用している点を高く評価して頂き、また今後シャンツェ内で実際のメニューとして提供するかどうかを検討される。また、SNS の運用については、グループで作成したマニュアルを参考に本格的な運用が目指される旨、シャンツェ職員さんからコメントがあった（図 11 から 14）。



図 11. 最終報告会の模様①



図 12. 最終報告会の模様②

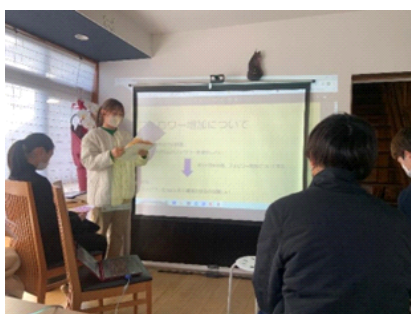


図 13. 最終報告会の模様③



図 14. 最終報告会の模様④

4. 学生を受け入れて

一般社団法人サステイナブル・サポートは、「誰もが自分らしく生きることのできる社会」を目指し、発達障害や精神障害など目に見えない障害のある人や、既存の制度の狭間にあり支援の届きづらい人へ就労支援を提供している団体である。2022 年度のインターンシップでは、「障害者の仕事のやりがい」と「保護猫問題」という 2 つの社会課題の解決を目指す「猫影」のオープン準備サポートに取り組んで頂いた。具体的には、①カフェで提供するメニューの考案、②保護猫カフェを知ってもらうための SNS 戦略として、2 つのチームに分かれて課題に取り組んで頂いた。

学生たちの提案は、しっかりと考えて企画をされたものであり、且つ障害のある人への配慮に満ちたものであったのではないかと感じた。まず、メニュー開発グループの考案については、岐阜に関連したメニューと、猫に関連したメニューの中で原価率や作りやすさなどを考慮したメニューを提案して頂いた。様々な提案があったが、フードロス対策の富有柿の柿

ジャムは食材の旬や気候で発育が悪い商品の消化、農家への収入の助けになりとても良い案だった。今後、作りやすさやお客様のニーズも検討しながら、提案して頂いたメニューを猫影で商品化できるよう考えていきたい。

次に、広報戦略グループの提案は、主にInstagramを宣伝ツールとし活用するもので、ホームページと違い情報が直接ターゲットにアプローチできる面で有効だと感じた。また、お店の情報をプロフィールに載せることで、地図や電話番号など知りたい情報を多くの方に知って頂けることと思う。何よりも、若い学生の視点・意見でInstagramの見せ方を工夫して頂いたことは、店のブランディングおよび顧客開拓に繋がると感じた。また、投稿方法をマニュアル化して頂いたことで、SNSの投稿の質が保たれスタッフ間のスキルアップにも繋がり非常に助かった。このマニュアルは今後ジャンル利用者へのSNS投稿指導にも役立つことと思う。積極的なご提案をありがとうございました。

5. おわりに

授業を終えて振り返ってみると、気づくことがいくつかある。1つは学生のグループワークの進め方が非常にスムーズだったが、その背景には何より各グループのリーダーが率先して役割を分担し、メンバーも積極的に動いてくれたこと大きく影響していたように思う。授業外でも「猫影」の担当者と連絡を密にし、進捗を報告することで助言を仰ぎ、適宜グループワークの軌道修正に取り組んでいた。まずはこの点を高く評価したい。

与えられた課題は、メニュー開発と広報戦略というものであり、SNSを主軸とした広報戦略は学生にとって馴染み深いかもしれないが、一方のメニュー開発はどこから取り組んで良いかで迷うことが多かったように思う。だが、教員の指示を待たずに地産地消を目指す意味から地域の農家はじめ、関係各所に自ら質問することで現状の把握に迫ろうとしたことも、非常に頼もしい姿勢であった。

与えられた課題に対する提案は、概ね高い評価を得ることができた。最終プレゼンでは決められた役割毎に学生が一つずつ提案していったが、発表の経験が浅いこともあっただろうが、どうしても用意した原稿を読み進めることが多かったのが気になった。自分たちの取り組みに自信を持って、聞き手に伝わるように発表する技法の修得が求められる。いずれにせよ、この授業で得た経験、たとえば課題の発見やその解決を目指す手順や手法、そして関連知識が今後の学生生活はもとより、社会人として働く上でも活かされることを願ってやまない。

【注】

- 1) 障害者総合支援法に基づいた福祉サービスを提供する事業所。就労を希望する障害者に対して必要な知識や能力を身につけさせ、当人に合った職場を探すサポートをする。また就労後には職場定着までのアフターケアも行う。
- 2) 事業内容などについては、一般社団法人サステイナブル・サポートのホームページを参照されたい。
- 3) この事業所は、厚生労働省の資料「障害者の就労支援について」（平成 27 年）によれば「通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う」と説明される。
- 4) 環境省「動物の愛護と適切な管理 人と動物の共生をめざして」統計資料
[https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html] (2023 年 7 月 27 日閲覧確認)

【参考文献】

1. 一般社団法人サステイナブル・サポート [<https://sus-sup.com/>] (2023 年 6 月 15 日閲覧確認)。
2. 「ノックス岐阜」 [<https://sus-sup.org/>] (2023 年 6 月 15 日閲覧確認)。
3. 一般社団法人サステイナブル・サポート「就労継続支援 B 型事業所アリー」 [<https://alley-ss.com/>] (2023 年 6 月 15 日閲覧確認)。
4. 一般社団法人サステイナブル・サポート「就労継続支援 B 型事業所アリーシャンツェ」 [<https://schanze-gifu.com/>] (2023 年 6 月 15 日閲覧確認)。
5. 環境省「動物の愛護と適切な管理 人と動物の共生をめざして」統計資料
[https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html] (2023 年 7 月 27 日閲覧確認)